

# 八清親和会 自治会役員のひとり言

平成30年2月20日

No4

八清親和会 副会長

吉田祐治

2月19日(月)昭島自治会連合会の第3ブロック長として「平成29年度立川市・昭島市自治会連絡協議会」に参加して来ました。

ブロック長として今回で2回目の参加でしたが、ただ両市自治会連合会の発表を聞くために参加するのではなく、私自身の一歩の目的は、立川自治会連合会の幹部・支部長と懇談し、第3ブロックや八清親和会の参考になる、あるいは取り込みたい立川市の自治会活動や情報をどん欲に取ることでした。

今回も、私自身としての収穫は大いにあり、参加の意義はありました。

例えば、昨年、第3ブロック・八清親和会として非常に参考になりましたのは、懇談会に於いて私自身着目し、立川自治連の支部長から聞き説明を受けた、立川市の各支部で行っている『健康フェア』でした。昭島市の自治連・自治会で行っていない地域の健康活動であり、立川市は行政の協力のもと立川自治会連合会と各支部の自治会が協力して病院の看護師を募り行っていることにヒントを得ました。

早速、八清親和会の主な活動項目、「高齢者健康・見守り」活動の一環に位置付け、5月にこれを真似て、地域内にあり八清親和会員でもある、一般・介護・療養病棟165床を持つ中規模病院の若手看護師が中心となって長年行っている、「看護の日」に着目しました。

これは地域の高齢者の健康意識を高めるため、無料で健康相談、血液、骨密度、体力測定などの地道な活動を行っており、そこに便乗させてもらいました。そして、自治会として「高齢者への地域健康フェア『看護の日』」と名打って、自治会内へ積極的にPRしました。

第3ブロック・八清親和会だけでなく、周辺地域のブロック・自治会へのポスター掲示、回覧のお願いをしたりして、まず一歩を踏み出してみました。

その結果、大成功で、病院食体験(これだけは有料)では即予約で埋まり、また当日は大雨にも関わらず、85名と多くの会員、地域の方々が参加し、予定の4時間ではすべての検査が終わらず、大幅延長になる嬉しい結果に終わりました。

そしてお年寄りに大変喜ばれました。

いつものことですが、自治会単独で実施したり、新しいことをおこなう時の付きものの、いろいろな忍耐も、これですべて忘れることができました。

このように目的を持って参加すれば、各自治会・ブロックとも参考になることが多々あるのではないのでしょうか。

また、ただ聞いて帰るのではなく、いかにそれを皆さんの自治会やブロックに取り込み、実行に移すか、それはこの連絡協議会に参加したあなた自身が、取り入れる、実行する、の一歩を踏み出す意思と、勇気ではないのでしょうか。

例えば、加入促進の自治会アンケートで出された、各自治会の問題点・課題も同じことが言えるのではないのでしょうか！

平成25年八清親和会の副会長になり、私自身最初に立川市の自治会からヒントを得たのは、「大山団地自治会」の自治会長 佐藤良子さんが大山団地自治会で取り組んだ自治会活動や高齢者対策の活動でした。これを知り、調べ、そして本としてまとめた「命を守る東京都立川市の自治会」も読み、活動・イベントも実際に見に行き、八清親和会の「自治会活動の再活性化」の取り組み参考にしました。

お会いしたことはありませんが、たしか今回も砂川支部の支部長として出席されていたと思います。

一方、昭島自治連常任委員としての視点で見た場合、私自身が常々感じている、昭島自治会連合

会と比較した場合の、昨年結成50年を向かえた立川自治会連合会のしっかりした体制と、今年、60年を向かえる昭島自治会連合会の脆弱な体制の原因はどこにあるのか、を考え、今回も立川市自治会連合会の組織・体制・人材・市行政との連携、支援などいろいろな観点から質問し、意見交換した結果分かったことは、主観ではありますが、組織・運営体制、仕組み、人材、市行政との連携・支援など断片的ではありますが、全く違い、それをうまく生かし活動している立川自治連、原因はここにあるのではないかと思います。

しかるに、このような連絡協議会は年一回行うことは良いにしても、むしろもっと大事なことは、昭島自治会連合会がこの連絡協議会を活用して、自分たち(自治連)のために取り組むべき内容は、立川市自治会連合会すべてについて調査し、懇談し、教えてもらい、その結果を比較表で「見えるかたち」にし、何が違い、何が問題か、何が足りないのか、何を学ばなければならないのか、を明確にし、改善することではないでしょうか！

また、今回、昭島自治会連合会はブロック長が20名中、8名(代理も立てず)も欠席している実態に於いても、立川市自治会連合会は、昨年昭島市で開催された時と同じく支部長始め出席者は昨年と同じく全員参加のようであり(私のチェック結果)、これだけを比較してみても、昭島自治会連合会の体質というか、取り組み意欲・姿勢というか、残念ながら表れていると言わざるを得ません。

最後に、立川市自治会連合会が発表した「新設『絆推進委員会』の設立目的と活動について」の中で、自治会加入率、平成15年61.2%が、平成29年41.95%迄減少した原因と取り組みの説明がありましたが、懇談会で意見交換した内容から推察すると、昭島市の自治会とは、原因が違うところにあるように私は感じられました。

いずれにしても、立川市も真剣に加入促進に取り組まなくなってきた、ということが分かりました。

昭島は、来年の新執行部にお任せしましょう。

以上、立川・昭島市自治会連合会連絡協議会に参加した一自治会役員が感じたひとり言です。

以上